

NO.S-07 徳並山～ぶどうの丘

期 日： 9月19日(日) 日帰り 天 候： 晴れ
参加者： 13名 費 用： 約4000円
コース： 南浦和駅発6:53=9:04 甲斐大和駅9:17-果樹園上部登山口10:05
-11:40 徳並山12:20-944.7点14:22-14:51 ルート確認15:01-下山開始15:30
-16:01 バス通り16:05=16:16 ぶどうの丘17:26=17:30 勝沼ぶどう郷駅18:00
=20:06 南浦和駅

旬のぶどうと評判の温泉を求めて、ぶどうの丘へ行きたいが、その前にちょっと山登りを引っ掛けてから、との安易な思惑は、標識皆無な徳並山の登山ルートの前に脆くも崩れ去ってしまった。

甲斐大和駅を予定通り出発するが、なにせ標識がない山の難しさ、早速里道で道を誤り、少々遠回りになってしまった。人生に回り道はつきものという先輩諸氏の慰めも、やがて訪れる更なる試練で吹き飛んでしまうことになろうとは、その時誰もが予想だにできなかったであろう。

果樹園の最上部で、動物の侵入を防ぐための扉をあけ、いよいよ本格的に山道に入ろうとするが、まず最初から道が見当たらず、稜線に向かって、半ば強引に登るとそこにはじめて踏み跡に近い道を発見して安堵した。そこからは、ほぼ稜線通しに、道が続いており、時折吹き抜ける涼風に励まされながら、頂上を目指した。上部になると岩混じりの登路となり、また傾斜も急になって、いささか強引に登るような踏み跡であった。それでも何とか昼前に頂上に辿り着き、小さな山名プレートと三角点だけが頂上の証のような展望のない小広場で昼食にした。

さてあとはぶどう目指して縦走するだけ、と思っていたが、この道はいくつかのピークを忠実にたどるルートで、その上り下りに消耗した。更に先頭は蜘蛛の巣に飛び込むような状況で、何とも不愉快で閉口した。944.7メートル点を過ぎて、稜線がなだらかに広がり、踏み跡が不明瞭になったが、ガイド

ブックの記述通り、右よりにルートをとると再び踏み跡が現れた。やれやれ何とか終盤にこぎつけたという安堵感でゆったりと休憩し、さてと歩き出したところで、ついに徳並山最大の試練が我々を襲った。

正しいルートはやや南寄りの尾根に入るのだが、先に顕著になる一本北の尾根に引き込まれてしまった。標高約700メートル地点まで下降したところで、どうも様子がおかしいとGPSを確認して、間違いに気がついた。間違いに気づきながら、戻らないのは山登りの基本に反すると、先ほどの休憩地点近くまで戻ろうとするが、精神的ダメージは大きく、標高差100メートルの再登高に30分近くを要した。

気を取り直して下山にかかると、今度は割とあっけなく導水管取水口に到着し、ここから導水管沿いの急な階段をトントンと下って、車道に降り立った。予定では、大日影トンネル遊歩道を歩いて、勝沼ぶどう郷駅に向かうはずであったが、既に通行時間を過ぎていたため、遊歩道事務所に電話で確認していると、一日に何本もない市営循環バスが通りかかった。なんだかんだいっても最後には、幸福の女神は我々に微笑む。既に座席は満席であった小さなバスに乗り込み、一路ぶどうの丘へと向かった。

ぶどうの丘では、露天風呂に入る人、早速「ビール」で乾杯する人、今年の晴天と暑さですこぶる出来がよいという甲州産ぶどうを買い求める人と、思い思いのひと時を過ごし、再び車上の人となって、帰路についた。(0記)

